

小規模企業景気動向調査

[平成23年7月期調査]

～引き続き改善傾向にあるが、一部の業種では伸び悩みが見られる小規模企業景況～

2011年8月19日
全国商工会連合会

<調査概要>

調査対象：全国約300商工会の経営指導員

調査時点：2011年7月末

調査方法：対象商工会経営指導員による調査票への選択記入式

<産業全体> ◇…引き続き改善傾向にあるが、一部の業種では伸び悩みが見られる小規模企業景況…◇

7月期の小規模企業景気動向調査では、産業全体の業況DI(景気動向指数・前年同月比)は、▲36.8と前月調査に比べ4.8pt上昇し3期連続の改善となった。また、サービス業を除く3業種において調査項目すべてが改善を示した。特に、建設業の売上額・業況については、約8ptと大きな改善となった。一方、サービス業については、売上額・資金繰りに悪化の傾向が見られ、震災後の回復の動きについて業種間の差が顕著になりつつある。

<製造業> ◇…引き続き改善が見られるものの、依然として予断許さない製造業…◇

製造業DIは、▲29.0と前月比で4.6ptと小幅な改善となった。自動車関連部品製造業においては東日本大震災で低迷した受注の回復や、農業・建設機械製造業においては受注が好調であり震災前の水準に近づきつつある。しかし、放射能による風評被害の問題や円高、夏期の電力不足等といった要因が、製造業に影を落としており、依然として予断を許さない状態である。

<建設業> ◇…大幅な改善が見られたが、業界全体の需要不足が常態化している建設業…◇

建設業DIは、▲45.5と前月に比べ8.6ptの大幅な改善となった。東日本大震災以来続いていた資材不足はほぼ改善した。7月末で住宅エコポイント制度が終了するため、一部駆け込み需要が発生したが、7月は官公庁工事が厳しい時期であり、需要不足が常態化している。また、原材料の仕入れ単価の上昇等により、資金繰りは依然として厳しい。

<小売業> ◇…地デジ、節電関連商品の動きが活発だが、先行き不透明な小売業…◇

小売業のDIは、▲37.4と前月に比べ3.4ptの小幅な改善となった。地上デジタル放送への移行に伴うデジタルテレビや関連機器が好調であり、また、節電意識の高まりから扇風機が品薄になるほど関連商品の動きは活発であった。食料品・飲料品の販売については冷菓・飲料の売れ行きが好調な一方で、放射能の汚染問題に関する情報が消費者に買い控えを起こし、特に、放射性物質の影響が報じられた牛肉の販売については大きな影響があった。

<サービス業> ◇…4か月連続の改善だが、業種によっては厳しいサービス業…◇

サービス業DIは、▲35.2と2.5ptの4か月連続の改善となった。海水浴シーズンなど季節性のイベントにより、地域によっては観光客の出足が戻りつつある。しかし、一方では高速道路の休日特別割引の終了により、恩恵を受けていた観光地等は厳しい状況となっている。また、節電によるメーカーの休日変更に対応するために、関連するサービス業でも対応を強いられている。

業種	産業全体			製造業			建設業		
	6月	7月	前月比	6月	7月	前月比	6月	7月	前月比
売上額	▲38.9	▲34.9	4.0	▲31.2	▲25.0	6.2	▲44.2	▲36.4	7.8
採算	▲38.4	▲35.0	3.4	▲32.5	▲28.8	3.7	▲52.3	▲47.2	5.1
資金繰り	▲35.4	▲32.2	3.2	▲29.1	▲25.1	4.0	▲52.9	▲45.8	7.1
業況	▲41.6	▲36.8	4.8	▲33.6	▲29.0	4.6	▲54.1	▲45.5	8.6

業種	小売業			サービス業		
	6月	7月	前月比	6月	7月	前月比
売上額	▲41.5	▲37.3	4.2	▲38.6	▲41.1	▲2.5
採算	▲36.6	▲32.1	4.5	▲32.5	▲32.1	0.4
資金繰り	▲31.4	▲30.0	1.4	▲28.1	▲28.2	▲0.1
業況	▲40.8	▲37.4	3.4	▲37.7	▲35.2	2.5

注) DI(景気動向指数)は各調査項目について、増加(好転)企業割合から減少(悪化)企業割合を差し引いた値を示す。